ときめいて人　かがやいて未来　2021

三重とこわか国体 三重とこわか大会

第76回国民体育大会　第21回全国障害者スポーツ大会

の取組を振り返って

２０２２（令和４）年３月

三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会事務局

＜はじめに＞

第76回国民体育大会（三重とこわか国体）および第21回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）については、2021年の三重県開催に向け、市町や競技団体などの関係者、県民の皆さんをはじめ多くの方々のご協力により、約10年間かけて準備を進めてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19） が2020年１月に日本で確認されたのち国内でまん延し、2021年８月には三重県に緊急事態宣言が発令されるなどの厳しい感染状況の中、同月に「三重とこわか国体・三重とこわか大会（以下「両大会」という。）」の中止が決定しました。

このたび、これまで実施してきた数々の取組を
○両大会の開催決定後、創意工夫を凝らして進めた開催準備
○新型コロナウイルス感染症の影響による開催準備の見直し
○両大会の中止決定後、積み上げてきた成果や想いをかたちにした取組
の３つの項目に整理し、その中から特徴的な取組を概要として取りまとめましたので、ここにご報告いたします。

＜目　次＞

1　これまでの国体や全国障害者スポーツ大会にとらわれない、創意工夫を凝らした開催準備　・・・・P.2
（１）会場整備における創意工夫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
（２）式典における創意工夫　・・P.4
（３）競技会における創意工夫　①競技役員や競技補助員の削減　②競技用具の購入経費の節減　・・・・・・・・・・・・・・P.5
③ユニバーサルデザインの取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.6
（４）選手の育成における創意工夫　①チームみえ・コーチアカデミーセンター　②三重県選手育成検討委員会　・・・・・P.7
（５）県民参加やおもてなしにおける創意工夫　①県民運動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.8
②家電リサイクルによるメダル制作　③メダルデザインの公募　・・・・・P.9

2　新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても両大会を成功させるため、開催準備の見直し　・・・P.10
（１）両大会の見直しに関する基本的な考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.11
（２）式典における見直し　・・P.12
（３）競技会における見直し　①競技日程や会場の変更　②応援メッセージを届ける仕組み　・・・・・・・・・・・・・・・P.13
③三重とこわか大会を観戦する仕組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.14
（４）両大会における新型コロナウイルス感染症対策の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.15

3　両大会が中止になっても、両大会に向けて積み上げてきた成果や想いをかたちにする取組　・・・・P.16
（１）代替大会の開催や特別映像の制作　①代替大会の開催　②選手に届ける特別映像の制作　・・・・・・・・・・・・・・P.17

1　これまでの国体や全国障害者スポーツ大会にとらわれない、創意工夫を凝らした開催準備

（１）会場整備における創意工夫

取組概要

▶開・閉会式（※）や競技会の会場となる「三重交通Ｇ スポーツの杜 伊勢」の整備に関して、国・伊勢市・県の調整により、都市公園の管理を市から県に移管して県が都市公園全体を一体的に管理

※変更前に当初予定していた会場

ねらい

▶会場（三重交通Ｇ スポーツの杜 伊勢）だけでなく都市公園全体を活用して、式典参加者（数万人規模）の動線確保や仮設設備の配置などを実施できるようにする
▶都市公園に対する国の交付金を活用し、財政負担を軽減する

手　法

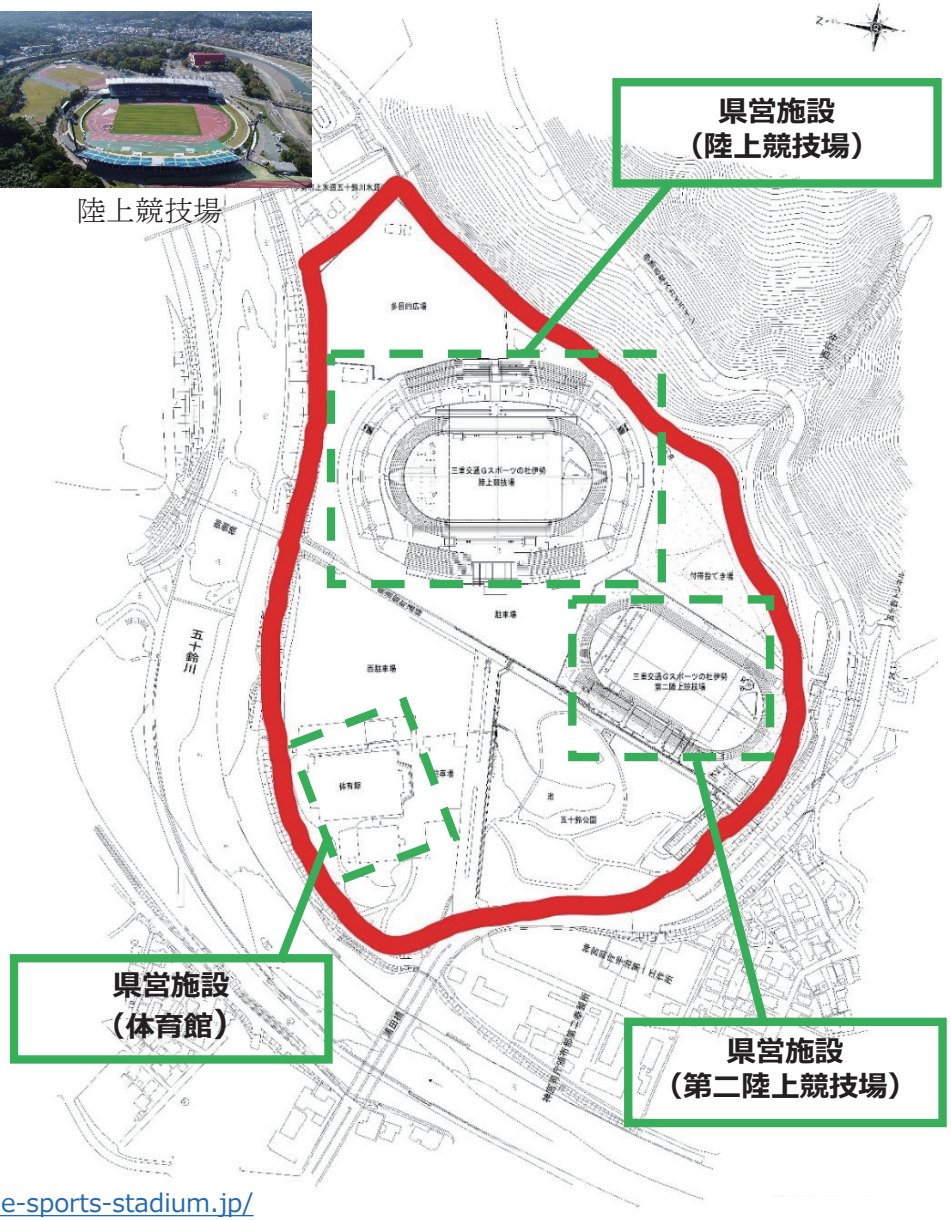
検討前	検討後
▶都市公園は市が管理・運営 ▶土地は市有地と国有地（国から市に無償貸与） ▶公園内にある県営運動施設は県が管理・運営（市が県に設置や管理を許可） ○国交付金の対象外（県は都市公園を管理していないため）	▶市から県に都市公園の管理を移管し、県営都市公園（県営運動施設を含む）として県が管理・運営 ▶土地は市や国から県に無償貸与（所有権は移転しない） ○国交付金の対象（県が都市公園を管理）

成　果

▶会場整備における財政負担軽減（国の社会資本整備総合交付金を充当）

都市公園（五十鈴公園）　平面図
（赤線が都市公園の境界）

陸上競技場



（参考）「三重交通Ｇ スポーツの杜 伊勢」ホームページはこちら　http://mie-sports-stadium.jp/

（２）式典における創意工夫

会場(変更前)：三重交通Ｇ スポーツの杜 伊勢

取組概要

▶式典（開・閉会式、炬火イベント）について、簡素効率化を図りつつ、創意工夫を凝らして計画

ねらい

▶選手や参加者の負担を軽減する
▶簡素効率化により、式典時間を短縮し参加人数を削減する
▶簡素な中にも創意工夫を凝らしつつ、おもてなしの心を形にして選手や参加者の印象に残る式典とする

手　法

式典運営

▶プログラムの順番を「式典演技→式典（選手入場等）」から「式典→式典演技」の順に変更
⇒式典演技中における選手の待機時間をなくすとともに、選手が式典演技を観覧可能
▶オープニングプログラムの出演団体は県で選定・依頼（公募せず）
⇒式典演技と連動した演出、式典時間の短縮、参加人数の削減
▶競技会（最終日）と総合閉会式を、同日開催ではなく別日に設定
⇒競技会場から式典会場への転換作業をなくし、設営の負担を軽減

式典演技

▶ストーリー性を重視した演技内容、オープニングプログラムから式典演技、エンディングセレモニーまでを一体的に演出　⇒参加者の印象に残る演出
▶式典演技に出演する子役５名を公募(オーディション)で選考(83名が応募)
⇒演劇を志す子どもたちに夢を掴むきっかけとなる場を創出

式典音楽

▶前回三重国体（1975年開催）使用曲を含む新旧楽曲を使用
⇒前回国体のレガシーを継承
▶歌唱隊はプロ歌手4名で構成、ファンファーレを歌唱アンサンブルで実施
⇒参加者の印象に残る演出

炬　火

▶炬火トーチ
応募総数1,922件からデザインを決定
▶炬火受皿
前回三重国体（1975年開催）頃に植樹した県産ヒノキを使用、デザインも踏襲
子どもたちが参加し組立イベントを実施

式典プログラム（国体総合開会式）

総合開会式 ９月25日（土）選手団・役員 約3,000人	
12：10 12：50	**オープニングプログラム** 式典演技の伏線となる観客を巻き込んだ企画プログラムや「炬火」にまつわる映像プログラム等を実施
13：00 13：54	**式典** 選手団・役員入場、炬火入場・点火、選手代表宣誓　等
13：56	（選手団・役員がバックスタンドへ移動）
14：15 14：45	**式典演技** （「式典演技のストーリー」参照）
14：47 15：25	**エンディングセレモニー** 会場が一体となって選手へエールを送る企画プログラムを実施
15：26	（終了）

炬火トーチ

炬火受皿

式典演技のストーリー

Gift from Mie
～ 選手に届け とこわかの力 ～

▶三重県出身の江戸川乱歩の代表作「少年探偵団」シリーズをモチーフに、ストーリー性豊かな演技を展開
▶三重らしさあふれる演出で「おもてなしの心」や「とこわか」に託した思いを選手に届ける

成　果

※国体総合開会式の例

＜式典時間＞
▶約１時間の短縮
（先催県 約4.5時間→三重県 約3.5時間）
＜開催規模＞
▶選手団　1,100人削減（4,100人→3,000人）
▶式典演技　900人削減（2,100人→1,200人）
▶式典音楽　240人削減（　374人→　134人）

（参考）「式典実施計画」ホームページはこちら
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/kokutai/0000000893.html

（３）競技会における創意工夫

①　競技役員や競技補助員の削減

取組概要

▶国体競技会において、競技役員や競技補助員の必要人数を削減

ねらい

▶年々増加傾向にあった競技役員や競技補助員を見直し、必要最小人数で競技会を運営する

手　法

▶競技役員や競技補助員の編成は、多くの教員・生徒の協力を得る必要があり、県は市町・競技団体・学校などと連携して競技役員および競技補助員を編成

中央競技役員の削減

▶「競技役員編成基準」に基づき、各競技会場の規模に応じた必要最小人数を事前に算出し、市町・競技団体と調整して中央競技役員の必要人数を削減

競技補助員の削減

▶県教育委員会・高校と市町・競技団体から双方の意見を事前に聴き取り、以下の視点により競技補助員の必要人数を削減

〇運営方法の簡素化・省力化
　（例）選手等の誘導・召集等にSNSを活用
〇役割分担の見直し
　（例）補助業務に関する役割分担の見直し
　　（競技役員による補助業務の実施など）

市町・競技団体合同説明会の様子

成　果

▶中央競技役員の必要人数　106人減（ 1,136人→ 1,030人）
▶競技補助員の必要人数　8,900人減（25,600人→16,700人）
　（参考：先催県の競技補助員数　23,000～26,000人）

②　競技用具の購入経費の節減

取組概要

▶国体の競技用具について、他県との連携により、購入経費を節減

ねらい

▶他県との間で競技用具を効率的に活用するとともに、財政負担を軽減する

手　法

ボート（規格艇）

▶４県（栃木県・熊本県・鹿児島県・三重県）で共同購入し、相互借用（４県で計76艇）

規格艇

ライフル射撃（電子標的）

▶愛媛県（2017年開催）から購入額の半額で有償譲渡

電子標的

成　果

▶ボート競技の規格艇
通常は76艇整備するところが、18艇の負担で整備
全体額（76艇）43,208千円
　→三重県（18艇）10,229千円（32,979千円減）
▶ライフル射撃競技の電子標的
愛媛県整備額68,091千円
　→三重県30,949千円（37,142千円減）

（３）競技会における創意工夫

③　ユニバーサルデザインの取組

取組概要

▶全国障害者スポーツ大会専門委員会の下に、障がい者や学識経験者などで構成する「ユニバーサルデザイン部会」を設置し、三重とこわか大会におけるさまざまな課題とその解決策を検討し、取組を具現化

ねらい

▶部会を設置してよりきめ細かく審議し、実効性のある対策をとりまとめる
（先催県においては、開催準備に関する内容の妥当性については専門委員会において審議）

手　法

<ユニバーサルデザイン部会をもとにした取組例>

LGBTへの対応	▶性別に関係なくだれでも利用できるトイレの設置や、更衣室をカーテンで仕切るなどの多目的利用
クールダウンルーム	▶精神障がい者が競技に向けて気持ちを落ち着かせる場所（クールダウンルーム）を設置
スポーツ観戦ツール（Isee TimeLine）	▶Webページにおいて、文字情報や音声により、競技状況をリアルタイムで確認したり戦況やルールの質問などができる仕組みを導入
要約筆記のオンライン化	▶聴覚障がい者の情報保障として、スマートフォンやタブレット端末で要約筆記を閲覧できるようにオンライン化（従来は会場のモニターに表示）
会場マップのWeb化	▶大会プログラムやガイドブックなどの情報をWebページに掲載することで、施設や設備の詳細な情報を提供 （例：トイレの便房数や多機能トイレの画像を掲載）
音声ナビゲーションシステム	▶視覚障がい者や車いすの方を対象に、スマートフォンを活用した音声ナビゲーションシステムを導入 （大会は中止になったが、競技会場となる予定であった一部の施設において2022年３月末まで実証実験を実施）

音声ナビゲーションシステム実証実験

成　果

▶音声ナビゲーションシステムを実証実験につなげるなど、実現可能な仕組みとして構築

（参考）「ユニバーサルデザイン部会」ホームページはこちら　https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0340900003.htm

（４）選手の育成における創意工夫

① チームみえ・コーチアカデミーセンター

取組概要

▶国体少年種別の競技力向上にむけた指導力の向上や、その指導を多面的に支える指導体制を構築

ねらい

▶少年種別強化の多くを高校教員が担っている中、最新の指導情報やコーチング等について、国内トップクラスの講師を招聘した研修を県内において受講できる環境の構築などにより、少年種別を強化する

▶指導者としての資質向上だけでなく、「チームみえ」として競技の枠を越えた一体感を醸成する

手　法

みえコーチアカデミー

▶コーチとしての資質向上と、次世代の指導者を養成する役割を学ぶ（国内トップクラスの講師による研修や、県内外の実践事例観察など）

みえコーチングコミュニティ

▶指導者同士で強化戦略プランの進捗や成果等を情報交換

みえマルチサポートシステム

▶指導体制上の課題解決に向けたサポート（アドバイザー、メンタル、医・科学、情報分析、栄養指導などの専門家派遣）

専門家派遣の様子

成　果

▶指導者の精力的な活動などと相まって、競技成績が向上
＜少年種別＞（１期生22人の例）
福井国体（2018年開催）６競技で入賞（78点）
→茨城国体（2019年開催）11競技で入賞（162点）

（参考）「チームみえ・コーチアカデミーセンター」ホームページはこちら
https://www.pref.mie.lg.jp/D1SPORTS/000184334_00001.htm

②　三重県選手育成検討委員会

取組概要

▶三重とこわか大会の各競技における選手の確保・育成のため、障がい者スポーツ団体等を中心とする「三重とこわか大会」三重県選手育成検討委員会を設置し、取組を推進

ねらい

▶障がい者スポーツの実情を把握している障がい者スポーツ団体等が選手育成等の検討段階から関わることによって大会出場選手を早期に確保するとともに、時間をかけて当該選手を育成し競技力向上を図ることで、大会での活躍につなげる

手　法

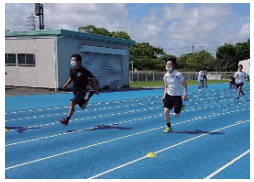
先催県

▶一般スポーツ団体の委員を中心として、育成組織を結成

↓

三重県

▶障がい者スポーツ団体等が選手を確保・育成
○全競技出場に向け、全ての競技において障がい者スポーツチームを結成
○障がい者スポーツ団体等が育成指定候補選手を推薦し、検討委員会において育成指定
○障がい者スポーツ団体等が主体となり、約３年間かけて育成指定選手を対象とした育成練習会を実施



育成練習会の様子

成　果

▶298人の選手を育成指定し、出場選手を確保・育成
▶加えて、障がい者スポーツ団体等による取組が活性化

（参考）「三重とこわか大会」三重県選手育成検討委員会　ホームページはこちら
https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0324000017.htm

（５）県民参加やおもてなしにおける創意工夫

①　県民運動

取組概要

▶県民の皆さんの主体的な参画による両大会に関するおもてなしなどのさまざまな取組を、「とこわか運動」と称した県民運動として実施

ねらい

▶県民の皆さんの自発的、積極的な参加による多種多様な取組をとこわか運動として紹介することにより、それをもとにした幅広い取組が県民自身の手により県内全域に広がることを期待

▶とこわか運動と市町が実施する競技会場装飾・飾花の連携により、地域独自のおもてなしにつなげる

とこわか運動　４つの柱

と　ときめく三重の力を結集

県民一人ひとりの参加により国体・大会を盛り上げ、みんながつながる喜びや充実感を味わい、わかちあえるよう、みんなの力を結集しましょう。

開・閉会式の式典演技に参加

運営ボランティアに参加

取組例
- 運営、情報支援ボランティアなど、ボランティア活動に参加する
- 開・閉会式の観覧や式典演技等に参加する
- 募金や企業協賛に参加する　・競技会場で応援する
- ポスターやのぼりなど広告物を掲示する
- 文化プログラムを実施、観覧する

こ　こころをこめた取組

県民の皆さんや来訪者の記憶に残り、感動や絆が生まれるよう、こころをこめてさまざまな活動に取り組んでいきましょう。

とこわかダンスを踊る

デモンストレーションスポーツに参加

取組例
- イメージソング「未来に誓け」を歌う、演奏する、とこわかダンスを踊る
- デモンストレーションスポーツに参加する
- とこまると撮った写真などをSNSで公開する
- 国体・大会を冠したスポーツなどの大会を開催する
- スポーツ体験会や健康づくり教室を開催する、参加する

わ　わになろう！魅力を伝えるおもてなし

美しい自然、豊かな歴史・文化、おいしい食べ物など、三重県のたくさんの魅力で全国から訪れる方をもてなし、交流の輪を広げましょう。

クリーンアップ活動に参加

手作りのぼりで応援

取組例
- クリーンアップ活動や花を飾るなど、街をきれいにする
- 特産品を活用したおみやげやとこまるグッズの開発、販売
- 手作りのぼり等による選手へのメッセージ
- 三重県ならではの食材等を活用したふるまい
- 笑顔で元気にあいさつ　・受動喫煙を防止　・手話に取り組む

か　かがやく未来　元気な三重

国体・大会が終わった後も、さまざまな活動への取組によりできた仕組みやつながりが残り、人や地域がいつまでも若々しくかがやき続ける元気な三重にしていきましょう。

スポーツに積極的に参加

スポーツイベントにとこまるを活用

取組例
- 国体・大会で開催した競技などを継続して実施する
- スポーツ大会やイベントなどさまざまな場面でとこまるを活用する
- スポーツを通じた誘客等を行う
- スポーツに積極的に取り組む
- とこわか運動の絆を生かし、地域で協力してさまざまな活動をする

手　法

先催県

▶花のリレーなどの取組は県が主導して実施

○花のリレー（競技会場装飾・飾花用に農業高校等に育ててもらった花苗の育成を、市町村の協力のもと小中学校等に引き継ぐ）

○クリーンアップ活動（競技会場などの清掃）

三重県

▶県主導による花のリレーなどの取組は実施せず、県民の皆さんに自発的な参加を呼びかけ、県民主体によるおもてなしや選手応援などの多種多様な取組をとこわか運動として登録・紹介

▶とこわか運動の取組を競技会場装飾・飾花にもつなげられるよう、市町と県が連携

成　果

▶2018年９月から取組を開始し、約３年間でおよそ1,400件の活動登録（とこわか運動の目標である1,000件を上回る実績）

▶市町において、とこわか運動と連携した地域独自の競技会場装飾・飾花を展開

「とこわか運動」の取組例

▶大学生による、三重とこわか大会の競技紹介動画の制作

▶制作した動画は「とこわか運動」のみならず、ボランティア研修などにも活用

▶地元の伝統的工芸品（鈴鹿墨）を使って会場応援メッセージを作成

（参考）「とこわか運動」ホームページはこちら　https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/category/19-0-0-0-0.html

（５）県民参加やおもてなしにおける創意工夫

②　家電リサイクルによるメダル制作

取組概要

▶県民の皆さんから提供いただいた使用済小型家電（携帯電話、パソコン等）から金をリサイクルして、三重とこわか大会の金メダルを制作

大会メダル

ねらい

▶メダル制作への参画を通じて、県民の皆さんに一緒に大会を盛り上げていただく

手　法

▶リサイクル金属から金を抽出して金メダルを制作
▶使用済小型家電の分解作業は福祉事業所が実施
▶メダル本体の一部を抜き落とし、視覚障がい者が手で触れても分かりやすいデザイン
▶メダルデザインだけでなく、首掛け紐にも伝統工芸品（伊賀組紐）を使用するなどして三重県らしさを表現

募集チラシ

成　果

▶県民の皆さんの協力により、5,000台の目標に対し6,131台の回収実績となり、金メダル1,553セットが完成
※大会中止により、制作したメダルは三重とこわか大会代替大会（17頁参照）において選手に贈呈

（参考）「三重とこわか大会メダル」ホームページはこちら
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/taikai/0000001076.html

③　メダルデザインの公募

取組概要

▶三重とこわか大会リハーサル大会のメダルデザインを特別支援学校の児童・生徒から募集

ねらい

▶大会に出場する選手以外の障がい者の方にも広く参画していただき、一緒に大会を盛り上げていただく
▶若者にアプローチすることで、将来の障がい者スポーツの担い手となることを期待

手　法

▶障がいの当事者から募ったデザイン（最優秀作品）でメダルを制作
▶メダルをＰＲイベントで展示するとともに、入賞作品７デザイン（最優秀作品×１、優秀作品×６）を大会プログラム各表紙に掲載

リハーサル大会メダル

大会プログラム

成　果

▶特別支援学校20校から募集し、256人が応募
※リハーサル大会中止により、作成したメダルは2022年度以降に開催する県障がい者スポーツ大会で贈呈予定

（参考）「三重とこわか大会リハーサル大会メダル」ホームページはこちら
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/taikai/0000001153.html

２　新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても両大会を成功させるため、開催準備の見直し

（１）両大会の見直しに関する基本的な考え方

三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催にあたって留意すべき事項

専門家の意見

「密を回避すること」
「クラスターを発生させないため、グループ単位（選手と観客、選手団同士など）での接触の機会を少なくする工夫を講じること」
「万が一、開・閉会式でクラスターが発生しても、競技会が継続できる対応とすること」

三重県には、1975年三重国体の質実国体、競技本位国体のレガシーがある

専門家や関係機関と協議

両大会全般にわたる見直しを決断

新型コロナ危機を乗り越え、両大会が開催できることを全国に示し、スポーツの力強さ、素晴らしさを三重の地から発信

上記を実現するために

基本的な考え方

選手ファースト

選手自らの力を存分に発揮できる安全・快適な環境の準備

安全・安心な大会運営

皆さんが安心して競技会を観戦、応援、参加できる大会運営

両大会で掲げてきた価値の新たなかたちでの創造

コロナ禍にあっても、県民力の結集や多様な魅力発信ができる大会

⇒「基本的な考え方」に基づき、さまざまな見直しを実施

（参考）「三重から示す！新しい国体・大会のモデル」ホームページはこちら
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1023/joniniinnkai3-2.pdf

（２）式典における見直し

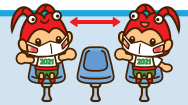
会場(変更後)：県総合文化センター

三重とこわか国体 三重とこわか大会
第76回国民体育大会　第21回全国障害者スポーツ大会

取組概要

▶新型コロナウイルス感染症対策として「会場の変更」や「オンライン式典」などの見直しを実施

ねらい



▶選手や関係者などが勢揃いすることによる密を避ける
▶単に規模を縮小するのではなく、安全・安心を確保したうえで、デジタル技術の活用や三重の食の提供などにより、選手へのおもてなしや応援する気持ちを伝える

手　法

会場の変更

▶万が一、式典でクラスターが発生しても競技会を継続できるようにするため、競技会場とは別の場所で式典を実施

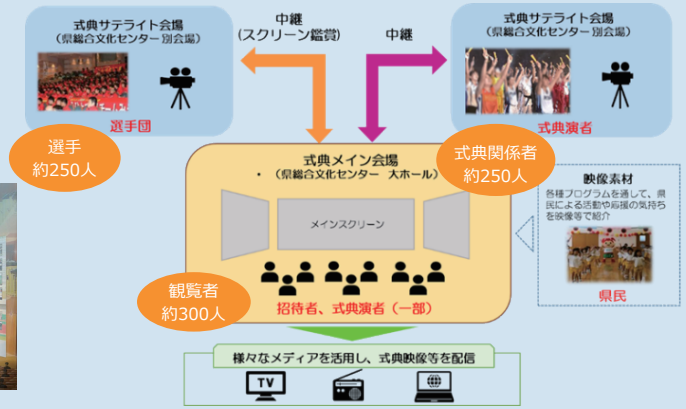
三重交通Ｇ スポーツの杜 伊勢（伊勢市） → 県総合文化センター（津市）

オンライン式典

▶式典時間や参加者を大幅に削減し、感染リスクを低減
▶メイン会場に大型３面スクリーンを設置し、バーチャル陸上競技場として式典を実施
▶選手を式典メイン会場(大ホール)から分離し、別会場(中ホール)からオンラインで参加（他の参加者と動線を分離）
▶メイン会場(大ホール)とサテライト会場(中ホール、屋外広場等)を中継でつなぐなど新たな試みを実施
▶メイン会場でのライブと中継・録画映像等による演出で、選手への応援の気持ちや三重の魅力を伝える
▶式典音楽は、感染防止対策の観点から事前録音で対応
▶さまざまなメディアを活用し、式典映像を配信

選手団紹介のイメージ

オンライン式典の概要図



高校生による式典弁当の作成

▶高校生レストラン「まごの店」を運営している相可高校生が、式典弁当の献立を考案・作成
（式典参加者の削減により式典弁当の提供数が減ったことを受けて実現）
▶県産食材の活用による三重の食の魅力発信に加え、相可高校生からのメッセージを添えるなどのおもてなし

式典弁当

成　果

▶コロナ禍での安全・安心も確保した新たなかたちの式典の仕組みを構築

＜開催規模＞

国体総合開会式	式典時間	観覧者数	式典関係者数	選手参加者数
先催県平均	約4.5時間	約12,000人	約4,900人	約4,100人
三重県	**約1.5時間**	**約300人**	**約250人**	**約250人**

（参考）「式典実施要項」ホームページはこちら　https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/kokutai/0000001219.html

（３）競技会における見直し

①　競技日程や会場の変更

取組概要

▶会場地市町において、国体競技会の競技日程や競技会場を変更

ねらい

▶競技会場における密を避けることで、感染リスクを低減する

手　法

日程および会場の変更（津市）

▶隣接会場で開催される他競技との重複開催を避けるため、日程を会期前に変更し、会場を変更

○レスリング：9.26～29→ 9.11～14　メッセウイング・みえ→サオリーナ

○柔道：10.2～4→ 9.18～20　メッセウイング・みえ→サオリーナ

▶変更後の施設設備を活用することにより選手控所等の仮設テント設置を取りやめ、費用を削減（削減額：128,601千円）

日程の変更（伊勢市）

▶同一会場で開催される他競技との重複開催を避けるため、日程を変更

○相撲：9.27～29→9.25～27（⇔陸上競技：9.30～）

○バドミントン：9.26～29→9.25～28（⇔卓球：10.1～）

▶複数競技で選手控所を共用することにより仮設プレハブ設置を取りやめ、費用を削減（削減額：約28,000千円）

会場の変更（名張市）

▶会場を屋内から屋外特設会場に変更

○弓道（近的）：マツヤマSSKアリーナ→名張中央公園駐車場

▶変更後のアリーナを選手控所として活用することによる仮設テント設置の取りやめや、練習会場設置などの取りやめにより、費用を削減（削減額：約33,700千円）

成　果

▶市町が限られた時間の中で関係者と調整し、日程や会場の変更により感染防止対策を実現

▶日程や会場の変更に併せて選手控所の仮設設置を見直すなどして、費用を削減

②　応援メッセージを届ける仕組み

取組概要

▶競技会の閲覧サイトである国体チャンネルや三重とこわか大会チャンネル（次頁参照）に、Twitterを活用して応援メッセージを表示

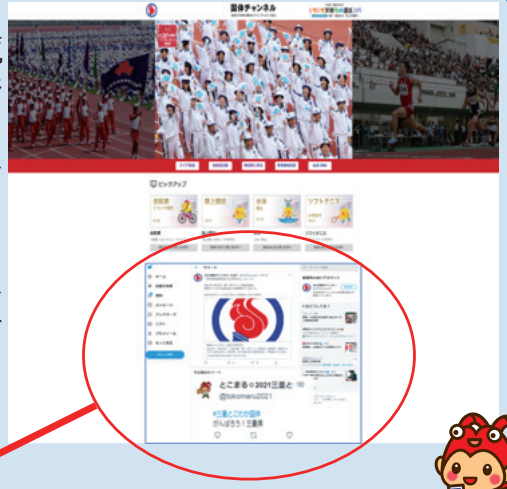
ねらい

▶新型コロナウイルス感染症の影響で競技会が「無観客」や「観客数を制限」となった場合においても、競技会場の外から応援の気持ちを選手に届ける

手　法

▶国体チャンネルに、閲覧者からの応援メッセージを表示する機能を追加（三重とこわか大会チャンネルについても同様に表示）

▶メッセージは、イベントやキャンペーンを活用するなどして募集



Twitter ウィジェットを挿入

イメージ図

成　果

▶競技会の動画配信という情報の一方通行に終わるのではなく、閲覧者からの応援メッセージを選手に届けることができる仕組みを構築

（３）競技会における見直し

③　三重とこわか大会を観戦する仕組み

取組概要

▶三重とこわか大会における競技会の動画配信Webサイト「三重とこわか大会チャンネル」を開設
▶高校生による競技映像の撮影（三重とこわか大会チャンネルで配信）
▶県障がい者スポーツ協会と県が連携し、大会に出場する選手や監督等を紹介する「選手名鑑」を制作

ねらい

▶新型コロナウイルス感染症の影響で競技会が「無観客」や「観客数を制限」となった場合においても、会場以外での観戦を可能とする
▶高校生の映像撮影への参画をきっかけとして、次世代の若者が障がいや障がい者スポーツへの理解を深めていただく
▶県民の皆さんが選手名鑑で選手を身近に感じていただくことで、三重県選手団への応援や今後の選手活動の支援につなげる

手　法

三重とこわか大会チャンネル

▶国体の競技会は「国体チャンネル」で閲覧可能だが、全国障害者スポーツ大会については閲覧可能な仕組みがない

▶三重とこわか大会の競技会を閲覧できるよう、チャンネルを開設
▶式典および正式競技14競技を撮影・配信（敷設済の国体チャンネル回線を流用）

（参考）国体チャンネルWebサイト

高校生による映像撮影

▶高校放送部の生徒が撮影
４校が４競技（観客席が少なく来場者数が著しく制限される競技や、ガイドラインにより無観客となる競技）で実施
○４校（私立高校）：鈴鹿高校、高田高校、桜丘高校、青山高校
▶撮影方法や配信内容は高校生が企画
（選手インタビューの配信スケジュールや撮影アングル、競技紹介の事前収録など）

撮影イメージ

選　手　名　鑑

▶選手情報に加え、選手の意気込みを掲載
▶Webサイトで公開するほか、冊子として配布

選手名鑑

成　果

▶障がい者スポーツを観戦できる仕組みの構築に加え、高校生の企画による映像配信など障がい者スポーツを楽しんでいただける仕組みを構築

（4）両大会における新型コロナウイルス感染症対策の取組

三重とこわか国体 三重とこわか大会
第76回国民体育大会　第21回全国障害者スポーツ大会

取組概要

▶新型コロナウイルス感染症の影響下においても安全・安心に両大会を運営できるよう、これまでの準備や先例にとらわれずに、感染防止対策の基本方針等を策定し、それらに基づく感染症対策を実施

ねらい

▶感染防止対策と感染者発生時における対策の取組を進めることにより、県民の皆さんには、安全・安心をしっかりと確保していくことをご理解いただき、安心して県外から選手等を温かくもてなしていただくとともに、県外からの来訪者の方々にも安心して三重県を訪れていただく

手　法

新型コロナウイルス感染防止対策基本方針

▶感染防止対策の全体像を示すとともに、県民の皆さんや参加される方々にお願いしたいこと、開催可否や観客対応についての検討を行う際の基本的な考え方を明示

感染防止対策ガイドライン
①開・閉会式
②国体競技会
③大会競技会

▶関係者や参加者が実施することが望ましい標準的な対策を規定
<ガイドラインの内容(一部)>
〇会場内で参加者(選手・監督、観客、報道員など)のカテゴリーが混在しないよう、ゾーニング
〇監督会議や開始式等の見直し、競技補助員の削減

参加条件

▶両大会参加に必要となる条件、両大会への参加を認めない者(感染疑い者等)のほか、参加にあたっての健康観察およびリスク管理を規定
<参加条件の例>
〇参加日の14日前から、体温、健康状態、行動歴を記録
〇選手団名簿の登録者等は、原則72時間以内に採取した検体でPCR検査を受検 など

体調不良者対応マニュアル

▶体調不良者や陽性者発生時の連絡体制、発生場所からの輸送手段、入院や宿泊療養施設の受入れ、濃厚接触者への対応など、想定される対応についてマニュアル化の検討・調整

開催直前における新たな緊急対策

▶開催直前に感染者数が急増したことから、追加的な緊急対策を行うことにより医療機関に負荷をかけずに開催する方法について、検討・調整に着手
〇事前のPCR検査に加え、来県後の追加検査の実施
〇両大会専用チームによる健康観察、疫学調査の実施
〇無症状や軽症の陽性者が、自宅代わりに滞在する宿泊場所の確保　など

成　果

▶基本方針やガイドライン等により具体的な内容を示すことで、関係者や参加者の理解を得ながら、両大会の開催準備における安全・安心の確保に向けた取組を実施
▶基本方針に基づき開催可否や観客対応（無観客など）判断を実施

（参考）ホームページはこちら
〇三重とこわか国体・三重とこわか大会新型コロナウイルス感染防止対策基本方針
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/0000001252.html
〇開・閉会式や競技会の新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン
三重とこわか国体・三重とこわか大会における参加条件
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/0000001245.html

3　両大会が中止になっても、両大会に向けて積み上げてきた成果や想いをかたちにする取組

（１）代替大会の開催や特別映像の制作

①　代替大会の開催

取組概要

▶競技団体と県が連携し、県外から選手を招いて両大会の代替大会を計画

開催計画	三重とこわか国体代替大会	三重とこわか大会代替大会
競技数	24競技	14競技
参加選手	3,525人	約800人

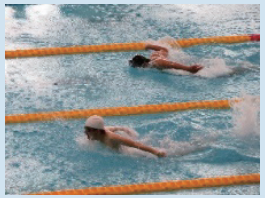
（いずれも計画時点の数）

代替大会の様子

水泳競技の例（国体代替大会と大会代替大会を合同開催）

三重とこわか国体代替大会

三重とこわか大会代替大会



競泳（４×50mメドレーリレー）では三重県選抜が日本記録を更新！

三重とこわか大会については、代替大会のほか三重県選手団の交流を目的として**「三重県選手団交流会」**を企画（参加見込：約500人）

ねらい

▶両大会に向けて研鑽を積んだ選手が成果を発揮し、達成感や充実感を感じることができる機会を設定する

（参考）ホームページはこちら
○三重とこわか国体　代替大会
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/kokutai/0000001494.html
○三重とこわか大会　代替大会
https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/taikai/0000001497.html

②　選手に届ける特別映像の制作

取組概要

▶式典で披露する予定だった「式典演技」の内容を中心に、両大会の式典本番のために撮りためた映像を再編集し、一部新しい映像も加え、全５話からなる特別映像として制作し配信

▶特別映像は、特設サイトによる配信のほか、地元放送局による特別番組の放送や、県内のケーブルテレビ局で放送

（選手に案内するため、代替大会の場や、以下の団体と連携して周知）
日本スポーツ協会、日本パラスポーツ協会、スポーツ庁、競技団体、都道府県スポーツ協会・障がい者スポーツ協会

○2021年12月から「特設サイト」でネット配信（2022年３月末まで）
○2021年12月に「三重テレビ」で特別番組を放映
○2022年２月に「県内のケーブルテレビ局（全８局）」で放送(計140回)

特別映像「選手に届け“とこわかの力”」の概要

▶選手団への応援
県内全29市町の小中学生(約2,400名)が、それぞれ各都道府県・政令指定都市の応援団となり、横断幕を持って声援を送る。また、各都道府県・政令指定都市の地元の方々も地元選手団に声援を送る。

▶炬火点火
県内各地の子どもたち(約1,400名)が、選手への応援の気持ちを込めて「炬火」を火起こししてきた。県内各地から集まった大切な「炬火」を、野口みずきさんがひとつにまとめ炬火台に点火する。

映像の一場面

▶式典演技
大切な「炬火」が消えかかった原因を、明智小五郎と少年探偵団が探っていく。少年探偵団は、「炬火」の源が「応援の気持ち」であることに気づく。「応援の気持ち」を送るさまざまなダンス等で「炬火」は再び取り戻される。
・バトンダンス　・高校生のダンス　・両大会イメージソングのダンス

ねらい

▶両大会に出場予定であった選手の皆さんに、県民の皆さんの声を届け、エールを送る

▶両大会の式典準備に協力いただいた式典出演者や県民の皆さん、総勢約4,600名の想いをかたちにしてお披露目する

＜おわりに＞

1975年以来の三重県開催となる国民体育大会（三重とこわか国体）、三重県で初開催となる全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）に向け、たくさんの方々に支えられながら両大会の開催準備を進めてきた約10年間でした。

＜両大会を支えていただいた方々＞
○両大会の三重県開催に照準を合わせて努力し成長を遂げてきた選手、選手を支えてきた指導者や選手のご家族、競技力向上に向けて取り組んできた競技団体の皆様　など
○競技会運営の準備に尽力いただいた市町の職員や協力いただいた学校の先生・生徒、式典の関係者、輸送・交通、宿泊、医事、警備、消防、弁当などの分野で両大会の準備を支えていただいた事業者や関係者の皆様　など
○ボランティアスタッフ、とこわか運動の参加者、募金・企業協賛やアスリート採用で協力していただいた皆様　など

この他にも、ここでは紹介しきれないほどたくさんの方々に両大会を支えていただきました。新型コロナウイルス感染症への対応などに苦慮する中でも開催準備を進めることができたのは、両大会に関わっていただいた皆様のご理解とご協力があったからこそであると考えています。
両大会に関するこれまでの取組を振り返ると、特徴的な取組がたくさんあり、この資料に掲載しきれなかったものも含め、これらはたくさんの方々とともに歩んできた成果であり、私たちの宝物です。
最後に、両大会に関わっていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会事務局

両大会の開催決定記念
フォーラム（2018年度）

情報支援ボランティア
オンライン研修（2020年度）

三重とこわか大会代替大会
グランドソフトボール（2021年度）

ダンスキャラバン（2019年度）

三重とこわか国体リハーサル大会
カヌー　スラローム・ワイルドウォーター
（2021年度）

三重とこわか国体 三重とこわか大会

を支えていただいた皆様へ

三重とこわか国体・三重とこわか大会
マスコット「とこまる」